

れんごう中越地協

第1031号2020.3.11
連合中越地域協議会
長岡市東蔵王2-2-68
TEL 0258-24-0515
FAX 0258-24-8930
発行人 矢島 良彦
定価 1部10円
購読料は会費に含まれる



長岡地区労働者福祉協議会

ワーク&ライフセミナー「多人数」



長岡地区労働者福祉協議会は、2月11日(火)午後1時半から2020ながおかワーク&ライフセミナー「多人数」を、長岡市社会福祉センタートモシアで開いた。今年初のセミナーは、2月1日から講座が始まる。

講師「SDGs入門講座」とワークショップには、80人の定員を大幅に上回る120人が参加した。第1部の講演は、高橋なんぐ氏(NAMA RA)を講師に、脳性マヒブラザーズのDAIGO氏も交えて、演題「社会課題をエンターテイメントで笑って楽しく生きる毎日を」では会場の笑いも誘いながらSDGsをわかりやすく説明した。



第2部は、渡辺さん(市民協働ネットワーク長岡)がSDGsをわかりやすく説明した。また、職場で取り組んでいる労働金庫から事例の発表もあった。参加した佐藤SJネット副委員長は「講演の中で脳性麻痺ブラザーズのDAIGOさんのポエムにあった『人類みんな障がい者』といったフレーズが、

でも印象に残っています。それまで私は障がいを持っていては皆さん様々な苦労をしてはいるはずだと決めつけてしまっていました。が、実際にDAIGOさんのお話を聞いて私の考えと大きなギャップがあることに気づきました。様々な境遇、考えを持つ人がいる中で、どのような人も当たり前に共存できる社会作りのために、まずは偏見を捨てて相手は本当に必要としていることを理解することが大切だと感じました。そのためにできることとして、何か問題があったらまずは面と向かって話し合い、互いの考えを共有した上で課題に取り組んでいきなす。互いを理解し助け合っていくことで、SGDsの理念の一つでもある『誰一人取り残さない』社会作りの第一歩として小さなことからでも実践していきたいです。」と感想を寄せた。

2月8日(土)午後1時からまちなかキャンパス長岡で、講座2「SDGsと国際交流」がシユミレーションワークショップ「新国際ボランティアセンター」が行われた。参加者は学生などを含めて22名。SDGsとは何か、からはじめ、ワークショップの最後には、17の目標に何が出来るか等を発表して終えた。また、同団体がベトナム農村部等での取り組みについて講演いただいた。

席を譲られたことはあります。先月上旬、テレビで「席をゆずりますマーク」の報道があった。このマークは、妊婦に席を譲ってもいいという人が、カバンなどにつけて使用するものだという。作ったのは、奥さんが妊娠時に電車に乗った際、優先席に座っていたお年寄りの方が席を譲ってくれた。若い人も座っていたとのこと。なぜ若い人が譲らないのか考えるうちに、声をかける勇気がなかったのかもと思い、「席ゆずりますマーク」を思い付いたとあった。▼数年前(50代半ば過ぎ)に二人で、京阪本線の電車に乗ったとき席を譲られたことがあった。譲ってくれたのは、女子高校生。優先席に座っていたわけではない。譲らなければという風貌に見えたのかなあと思いつつ、遠慮なく座ったが、相棒は含み笑いしていたことを思い出した。

2月11日(火)午前10時から講座1「DVと虐待」が行われた。講座は、白川美也子さん(精神科医)から目黒児童虐待死事件で母親のカウンセリングを通じて、DVや虐待のトラウマ体験が人の考え方や行動に及ぼす影響について講演いただいた。

当日は、60名の定員が100名程に膨れ会場も変更となった。参加者からは、様々な高評価が寄せられ、充実した講座となった。ぶれじゆながおかやさしい社会に向けて講座4が2月8日(土)午後1時から、市民協働ルームで行われ50名を超える参加があった。

講座では、「道草」の上映とやさしい社会に向けての活動報告等が行われた。また、映画は、障がい者の自立支援に向け、家族や介護者とともに取り組んでいた内容であった。

質上げ・一時金情報、活動予定・紹介・報告、地域よもやま情報、連合中越のホームページは <http://tyuuetu.net/> 連合中越のメールアドレスは rengo.c@topaz.ocn.ne.jp

「多人数」

事務局長 小林 守



サラリーマン川柳(退職金 使用計画 妻起業) (ゴミ屋敷 ルンパ通れる 床もなし) (就・婚・終 わが家はみんな 活動家) (やられたら やり返せるのは ドラマだけ)

